発行日・令和8年9月10日 発行・狭山市 編集・狭山市企画財政部広報課

さやまの世ばなし ⑫

このコーナーでは、昔から市内で語り継がれている言い伝えなどを、池原さん流の描画で紹介します。

第六天のキツネの話（堀兼）

昔のお話です。堀兼、青柳の第六天あたりは、松や杉の生い茂るところでした。

ある時、中新田の方からやってきたおばあさんが通りかかったとき、杉の根元にある稲荷さまの祠の前でキツネがいねむりをしているのを見つけました。

おばあさんがついいたずら心で小石を投げると、キツネにあたり飛び上って逃げていきました。

用事も終りおばあさんが第六天に来たころは夜になっていました。突然火の玉があらわれ大きな杉の上でどんどん大きくなっていくではありませんか。おばあさんはびっくり！近くの家に走りこみ「火事だべえ」とおおさわぎとなりました。

さて翌朝いってみますと焼けたあとは何もなく、松や杉は青々と茂っていました。これはキツネがおばあさんに意趣返しをしたということです。

題字・絵・文／池原昭治氏

※意趣返しとは仕返しのこと

池原さんのプロフィールやほかの作品はこちら▼

分かるかな？

今月の写真クイズ

写真は、今月号に掲載した写真の拡大写真です。何ページの何の写真でしょう？

正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。郵便はがきに、住所、氏名、電話番号、クイズの答え、感想を記入して広報課宛（〒350-1380 入間川1丁目23番5号）にお送りいただくか、右の二次元コードから応募してください。

締め切り9月30日(水)

8月号の答え

2ページ「すぐできるカラダ革命『食べる』と『動く』」の「カボチャの煮物」の写真でした。

編集後記

今月は障害者雇用の記事を担当しています。インタビューでは質問に一つ一つ丁寧に答えてくださる姿や好きなことの話題で楽しそうに笑う姿など、さまざまな表情に出会いました。中でも印象に残っているのは、皆さんのすてきな笑顔です。どの方のお話からも、仕事に対してひたむきに取り組まれている姿勢が伝わってきました。また、中には趣味を楽しむ休日のこと、将来は一人暮らしを考えていることなどの仕事以外のお話をしてくださる方も。働くことは、ただ業務をこなすだけではなく、その先の暮らしや日々の喜びにもつながっているのだと改めて実感した取材でした。そしてその日常を支えているのは、一人一人の思いを大切にし、働きやすい環境を整え、見守っている周囲の人々の存在です。人と人との温かいつながりに触れ、私自身も元気をもらいました。

人口と世帯（市民課）

※人口は8月1日現在（　）内は前月比。転出入等は1カ月間の累計

男	73,272人（ +27人）	転入等	593人
女	74,151人（ +32人）	転出等	438人
合計	147,423人（ +59人）	出生	60人
世帯	74,128世帯（+157世帯）	死亡	156人

公式X　公式Facebook

マチイロ「広報さやま」がスマホで見られます！

狭山市LINE公式アカウント ID:@citysayama

この広報紙は再生紙を使用しています。